

出エジプト記 20 章 1-11 節 十戒 第二部

先週、神によって十戒が与えられる記述を学び始めました。第 19 章は、シナイ山に降り注ぐ神の栄光の驚くべき顕現と、神の聖さを示すモーセの契約による約束の掟の舞台を整えました。十戒とより広範なモーセの律法の授けにおいて起こる全ての事象は、神がイスラエルの民と結ばれる契約であり、その御心、この民に対する神の恵み深い主権的選択のみに基づいて聖なる民を創り出すことにありと私たちは理解しました。

モーセの契約の鍵となる聖句において、私たちはこれを見ます。

しかし、これはどのように実現するのでしょうか？神との関係を持つに値しない罪深い民、彼らを捕らえていたエジプトの民と何ら変わらない者たちが、どうして祭司の王国、聖なる国民となるのでしょうか？この契約はその実現条件を定めています。つまり、聖なる神を喜ばせ、聖なる国民として生きるために必要なことを規定しているのです。そしてその必要条件は、私たちの多くがこれまで考えたことよりもはるかに厳しいのです。

20 章を読み始め、これらのヘブル語では言葉と呼ばれている戒めが 現代の私たちにどのように適用されるかを見ていきましょう。1-2 節は、神がこれから語ろうとされている言葉を紹介しています。

出エジプト記 20 章 1-2 節 それから神は次のすべてのことばを告げられた。2 わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である。こと十戒に関しては、ウェストミンスター小教理問答とベンジャミン・キーチのバプテスト版が非常に役立ちます。各戒めについて、何が求められているか？何が禁じられているか？を問い、そして具体的な問題に取り組みます。これらの教理問答は、私自身の十戒に対する理解を形作ってきました。戒めの序文は神の権威の根拠を示しています。神は御自らをヤハウェ、すなわち「私はある」として啓示されました。イスラエルを奴隷状態から救い出された、主権的な自存される創造主です。彼らの贖い主として、神は当時も今も、御自身の民に対する聖さの基準を定める権利を持たれます。しかしこれらの戒めは、単なるすべきことと、すべきでないこととはるかに超えたものです。神は御自らの権威の根拠を繰り返し述べた後、3 節で最初の戒めを与えられます。**あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。**

表面的には、これが単純に思えるのは理解できます。もちろん、他の神々を崇拝すべきではありません。結局、詩篇 96 篇 5 節が指摘するように**まことに どの民の神々も みな偽りだ。しかし主は天をお造りになった。**神に召された民が神を神として礼拝するのは当然ではないでしょうか？そうあるべきですが、私たちの礼拝は容易に誤った方向へ向けられてしまいます。誰もが礼拝します。

ティム・ケラーはポストモダン作家デイヴィッド・フォスター・ウォレスの言葉を好んで引用しました。彼はこう述べています。「誰もが何かを崇拝している。我々に与えられた唯一の選択は、何を崇拝するかだ」。ケラーによれば、「崇拝」とは最高の価値を認めることです。あなたが最も大切にし、愛するもの、あなたの存在意義と安心感の最大の源泉となるもの。それをあなたの心の中で崇拝しているのです。

たとえクリスチャンであっても、私たちは神以外のものに最大の意義や安心を見出すことができます。そうしたとき、私たちは第一の戒めに従っていないことになります。第一の戒めは、単に神に礼拝を献げよと肯定的に命じるだけでなく、否定的に言えば、神に献げるべき礼拝を他の何ものにも、誰にも献げてはならないと暗に伝えているのです。クリスチャンとして、私たちの心が神以外の何かに礼拝を献げていることがあまりにも多いのは明らかです。それは教育かもしれません。娯楽かもしれません。地域社会における名声や名誉かもしれません。家族であり、家庭生活の中心性を神の礼拝よりも優先させることかもしれません。この定義において、良いものが偶像崇拝の対象となり、私たちの生活から神を追い出すことがあります。これが 4-6 節の第二の戒めへとつながるのです。**あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。5 それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたみの神。わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、6 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。**第一の戒めは、神が

御自身のみを崇めよと要求するものであり、第二の戒めは、神がなぜこれを要求されるのか、その御心を示しています。ジョン・パイパーは、この第二の戒めの中に、夫が妻に対して示す姿が描かれていると指摘しています。神は御自身を **ねたみの神**と表現されています…これは、神と民との関係が結婚関係として描かれていることを理解すれば、完全に納得のいくことです。**エレミヤ書 2章2節**さあ、行ってエルサレムの人々に宣言せよ。主はこう言われる。わたしは、あなたの若いころの真実の愛、婚約時代の愛、種も蒔かれていなかった地、荒野でのわたしへの従順を覚えている。

神が御自身のものとして選び、捕囚から救い出された民を、神は御自身の花嫁として選ばれたのです。これは聖書全体を通して用いられる比喻です。新しい契約に至ると、教会の姿はキリストの花嫁として描かれます。実際、結婚そのものがその関係を象徴しているのです。**エペソ人への手紙 5章25~27節** 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、27 ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

どんな夫にとっても当然のことながら、神は仰います。あなたの忠誠と愛と献身は、ただ私だけに向けられるべきであると。他の何かに愛情を分けることは、創造主であり救い主である私に対する姦淫である。当時の古代世界では、像や彫像、さらには自然物である動物や樹木、岩石までもが崇拝の対象となり得た。これは日本の状況にも通じる話ではないでしょうか？日本の風景には、神霊が宿ると信じられた何体の像が点在しているのでしょうか？どのくらいの数の寺院が仏像や他の霊的な存在の像を祀っているのでしょうか？公然たる偶像崇拝があまりにも蔓延しているため、もはや日常茶飯事となっています。それに囲まれながらも距離を置く立場なら、自分は関与していない、と言うことは容易いでしょう。おそらく、宗教儀式や神社やお寺に関わる活動を含む社交の場への関わり方には、より注意を払う必要がある人たちもいるでしょう。しかし、私たちの大半にとって、この戒めへの背きは別の形で訪れます。この戒めは、私たちが神を礼拝する際に像を用いないことを意味するだけでなく、ウェストミンスター小教理問答が述べるように、御言葉に定められていない、いかなる方法でも神を礼拝することを禁じています。私たちは唯一、神のみを礼拝しなければなりません。しかし、それは神の定められた方法でなされねばなりません。これは教会としての公同礼拝にも当てはまり、私たちは神の御言葉が教会における礼拝の在り方として示すものに、可能な限り忠実に従おうと努めます。しかし、神の妬みは、その永遠の愛の保証と共にあることに注目してください。神の愛が私たちを見守り抜くという保証があるなら、神への礼拝に忠実であり続けるのは容易いのです。神を礼拝しない者に対する神の裁きは厳しいです。5節はこう述べています。神は言われます、**わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし**、しかし神の愛は、その正反対の方向にも強く働きます。6節にはこう記されています。神は言われます、**わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである**。ゆるぎない確かな愛という言葉は、神が御自身の民に対する思いを表すために繰り返し用いられる言葉です。これは妻を従わせるために怒りや虐待をちらつかせる横暴な夫のものではありません。これは数年前にホセア書で学んだ不貞を働く妻を情熱的に愛する夫の愛です。それでも神は民を選び、自らのものとして、ゆるぎない、変わることはない、尽きることのない、信頼すべき愛を注ぎ続けられます。それは民が満足を求めて他の誰かや何かを仰ぐ必要をなくすためです。そのような神にとって、第三の戒めは最初の二つに続いて当然のように導かれます。7節はこう記します。**7 あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にすることはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない**。その栄光ゆえに宇宙で唯一崇拝されるべき存在である神は、またその御名が誤用されることを許されません。もちろん、これはヤハウエとしての御自身の啓示に遡りますが、それ以上に及びます。単に御名だけでなく、御自身に関連する全ての称号、特性、御命令、御言葉、御業も含まれます。つまり、神が御自身を現すあらゆるものを冒瀆することは、この戒めの背きとなります。では、実践的にはどう表れる

でしょうか？より明白な例として、イエスの名や神の御名を罵倒語として用いることは禁じられています。残念ですが、私は、激しく強い怒りや嫌悪、驚き、苛立ち等の表現として、つまり罵倒語として、イエス様や神の御名を好んで使うクリスチャンさえ知っています。私たちの多くは決してそうしません、イエス様はマタイ書 5 章 33-37 節でこう語る際、この戒めを念頭に置かれたのではないのでしょうか。マタイの福音書 5 章 33~37 節 また、昔の人々に対して、『偽って誓ってはならない。あなたが誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。34 しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。天にかけて誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。35 地にかけて誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムにかけて誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。36 自分の頭にかけて誓ってもいけません。あなたは髪の毛一本さえ白くも黒くもできないのですから。37 あなたがたの言うことばは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』としなさい。それ以上のことは悪い者から出ているのです。

神の御名を誠実さを避けるために用いることは、神の御名を冒瀆することです。したがって、神について嘘をつくことや、神について誤った印象を与えることは、神の御名を誤用することであり、旧約聖書における宣誓の規則でユダヤ教の宗教指導者たちが行ったことです。牧師や教会、神学者たちが、LGBTQ のような罪深い生活様式や行為を神が容認しているかのような神の像を描くとき、他者に不誠実な神の観念を提示していることになります。このような行為は、神御自身の本質、御性質、属性について不誠実であるため、主の御名をむやみに用いることとなります。しかし、今日私たちが考察すべきもう一つの戒めがあります。8 節から 11 節にはこう記されています。安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。9 六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。10 七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。11 それは主が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休んだからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。クリスチャンはこの命令の適用方法について意見が分かれてきました。契約神学や前述の教理問答に従う人たちは、日曜日がキリスト教の安息日であると教えます。一方、私たちの信仰声明であるバプテスト信仰とメッセージは次のように述べています。週の初めの日は主日である。これはクリスチャンが定期的に守るべき慣習である。それはキリストの死からの復活を記念するものであり、公的にも私的にも、礼拝と霊的献身を行うべきである。主日の活動は、イエス・キリストの主権のもとにあるクリスチャンの良心に沿うべきである。これは、日曜日と安息日、元来は第七日である土曜日、の間に直接的な関連性を見出さないものの、教会にとって神を礼拝する日、霊的な安息の日として一日を献げるべきだと理解していることを意味します。究極的には、キリストがこの契約を成就され、私たちはキリストにあって真の安息を見出します。ヘブル人への手紙 4 章 3 節は、私たちの救いに関連してこの安息の休息について語っています。ヘブル人への手紙 4 章 3 節 信じた私たちは安息に入りますが、「わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れない』」と神が言われたとおりなのです。もっとも、世界の基が据えられたときから、みわざはすでに成し遂げられています。

今日のクリスチャンである私たちにとって、この命令の核心は、キリストにあって、肉体的にも霊的にも、休むことを学ぶことです。神は、ご自分の民が働きすぎて死んだり、感情的にも肉体的にも霊的にも燃え尽きたりするのを望んでおられません。時にはそれは怠惰と戦うことを意味し、また時には立ち止まり、ノー、と学ぶことを意味します。忙しさは休息ではありませんが、ほとんどの休暇もまた休息ではありません。しかしイエス様はマタイ書 11 章 28 節で私たちを招いておられます。マタイの福音書 11 章 28 節 すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。そして私たちはこれを軽んじてはなりません。なぜなら、休息を必要としない創造主御自身が創世記において模範を示されたからです。六日の労働と一日の休息です。神が模範を示されたなら、私たちもそうすべきです。

最初の四つの戒め、真の神の前に他の神々を置かないこと、礼拝において偶像や像を作らないこと、神の御名を尊ぶこと、安息日を守ることは、すべて神御自身に向けられています。来週取り上げる最後の6つは、むしろ他の人間に対する私たちの行動に向けられています。だからこそ、イエス様が律法全体を二つの戒めに要約して宗教指導者に答えた時、マルコ書 12 章 29-31 節でこう言われたのです。 **マルコの福音書 12 章 29~31 節 イエスは答えられた。『第一の戒めはこれです。『聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。 30 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』 31 第二の戒めはこれです。『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。』これらよりも重要な命令は、ほかにありません。』**

この最初の四つの戒めは、私たちが心と魂と知性と力のすべてをもって、真に神を愛する方法を示しています。これらの戒めの意味を深く理解するとき、明らかになるのは、私たちには誰も、本来あるべき姿で神を真に愛する力がないということです。問題の核心は私たちの罪にあります。ローマ人への手紙 3 章 23 節が言うように、 **ローマ人への手紙 3 章 23 節 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができません** 私たちの罪は、神の命令に従い神として神を完全に礼拝し栄光を帰することを妨げます。私たちは皆、心に偶像を立て、周囲の文化から物理的な偶像さえも作り出し、神ではない他のものを礼拝してきました。神を愛し礼拝することにおける私たちの失敗の問題の解決策は、私たちの罪の解決策と同じです。すなわち、十字架上のイエス様の犠牲と復活です。私たちの罪を悔い改め、主であり救い主であるイエスを信じることによってのみ、不完全でしばしば分裂した私たちの礼拝は聖なる神に受け入れられるのです。これはイエス様が人として全うされた完全な従順に基づくものであり、神の恵みの賜物として私たちが持つ信仰に基づいて、私たちに転嫁され、与えられたのです。キリストによって与えられた内住される聖霊を通してこそ、私たちは神が求め、ふさわしい方法で神を礼拝することができるのです。私たちがキリストにあって成長し、聖霊による従順の中で人生が形作られるほど、日々神への愛を深め、来週見るように他者への愛も育むにつれ、私たちの礼拝はこれらの最初の四つの戒めにますます一致していくのです。祈りましょう。

Exodus 20:1-11 The Ten Commandments Part 2

Last week really began the account of receiving the 10 Commandments. Chapter 19 set the stage with this incredible display of God's glory descending on Mount Sinai, and rules for the giving of the Mosaic Covenant that demonstrated the holiness of God. We saw that everything that happens in the giving of the 10 Commandments and the greater Mosaic law is a Covenant that God is making with the people of Israel with the intent of creating a holy people based purely on his gracious sovereign choice of this people. We see this in the key verses for the Mosaic Covenant, [Exodus 19:5-6A](#). **5 Now therefore, if you will indeed obey my voice and keep my covenant, you shall be my treasured possession among all peoples, for all the earth is mine; 6 and you shall be to me a kingdom of priests and a holy nation.** But how will this happen? How will sinful people who are no more worthy of being in relation to God than the people of Egypt who were holding them captive, become a kingdom of priests and a holy nation? This covenant lays out the terms for that to happen. In other words, they define what it takes to please a holy God and live as a holy nation and people. And the requirements are so much higher than I think most of us have ever considered.

Let's start reading chapter 20 and see these commandments, which are actually referred to as sayings or words in Hebrew, and how they apply to us today. Verses 1-2 introduce the words that God is about to say. **20 And God spoke all these words, saying, ²“I am the LORD your God, who brought you out of the land of Egypt, out of the house of slavery.** When it comes to the Ten Commandments, the Westminster Shorter Catechism and Benjamin Keach's Baptist version are very helpful. For each command, they ask: *What is required? What is forbidden?* and address specific issues. These catechisms have shaped my own understanding of the Ten Commandments. The preface to the commandments shows the basis of God's authority. He revealed himself as YAHWEH, I AM WHO I AM—the sovereign self-existent Creator who delivered Israel from slavery. As their Redeemer, He now has the right to set the standards of holiness for His people, then and now. But these commandments are far more than simple do's and don'ts.

After repeating the basis for his authority God gives the first commandment in verse 3. **“You shall have no other gods before me.** Now on the surface you can see how this would seem simple. Of course, we should not worship any other gods. After all as [Psalm 96:5](#) points out, **For all the gods of the peoples are worthless idols, but the LORD made the heavens.** Wouldn't it be natural for those God has called to be his people to worship him as God? It should be but our worship is easily misdirected. Everyone worships. [Tim Keller was fond of quoting the postmodern writer David Foster Wallace when he says,...](#) *everyone worships. The only choice we get is what to worship. According to Keller, "worship" is ...the ascribing of highest worth. Whatever you value or love the most--- whatever is your greatest source of significance and security---you are worshipping in your heart.* Even for Christians, we can find our greatest significance and security in things other than God. When we do this we are not obeying the first commandment. You see the first commandment does not just positively tell us to give worship to God, it also implies negatively that we cannot give the worship he is due to anything or anyone else.

It should be obvious that as Christians too often our hearts can be worshipping something other than God. It could be education. It could be entertainment. It could be prestige and honor in our community. It could even be family and putting the centrality

of our family life above the worship of God. In this definition, good things can become idolatrous things, and displace God in our lives. Which leads to the second commandment in verses 4-6. ⁴“You shall not make for yourself a carved image, or any likeness of anything that is in heaven above, or that is in the earth beneath, or that is in the water under the earth. ⁵You shall not bow down to them or serve them, for I the LORD your God am a jealous God, visiting the iniquity of the fathers on the children to the third and fourth generation of those who hate me, ⁶but showing steadfast love to thousands^[b] of those who love me and keep my commandments. The first commandment is one of God demanding the exaltation of himself alone, and the second commandment shows us his heart as to why he would demand this. John Piper points out that in this second commandment you have a picture of a husband to a wife. God describes himself as a “jealous God”... This makes perfect sense when we understand that God’s relationship to his people is described as one of marriage. [Jeremiah 2:2 says, 2 “Go and proclaim in the hearing of Jerusalem, Thus says the Lord, “I remember the devotion of your youth, your love as a bride, how you followed me in the wilderness, in a land not sown.](#) So, the people God chooses to be his own, and delivers from captivity, he has chosen to be his bride. It’s a metaphor used throughout Scripture. When we come to the New Covenant, the picture of the church is one of being Christ’s bride. In fact, marriage itself pictures that relationship. [Ephesians 5:25-27 says, 25 Husbands, love your wives, as Christ loved the church and gave himself up for her, 26 that he might sanctify her, having cleansed her by the washing of water with the word, 27 so that he might present the church to himself in splendor, without spot or wrinkle or any such thing, that she might be holy and without blemish.](#) As would be natural for any husband, God says your loyalty, love and devotion is to be only for me. To divide your affection for any other thing is adultery against your Creator and Savior. In the ancient world of that time it was images, statues, and even natural objects, animals or trees or rocks that may become items of devotion and worship. Sounds familiar to our setting in Japan, doesn’t it? How many statues thought to contain the spirit of a kami are scattered across the landscape of Japan? How many temples contain the image of Buddhas and other spiritual beings? There is so much open idolatry that it becomes common place. It is easy when surrounded by it and avoiding it to say I’m not participating in it. Perhaps for some of you, you do need to be more careful of your involvement in social situations that include activities involving religious rituals and shrines and temples. But for most of us, violation of this commandment will come in other ways. This commandment means that we do not utilize images in the worship of God, but even beyond that, it is forbidding us from worshipping God in any way not “appointed in his Word” as the Westminster Shorter Catechism says. We must only worship God and God alone, but we must do it his way. This applies to our corporate worship as a church as we try to align as closely as we can to what the Word of God tells us worship in the church should be.

But notice that God’s jealousy comes with the assurance of his eternal love. It is easy to stay true to the worship of God, when we have the guarantee of his love to see us through. His judgement against those who don’t worship him is severe. Verse 5 says, he visits... [the iniquity of the fathers on the children to the third and fourth generation of those who hate me...](#) But God’s love is just strong in the opposite direction. Verse 6 says, he shows... [steadfast love to thousands^{\[b\]} of those who love me and keep my commandments.](#) The word steadfast love is the word God uses over and over to describe how he feels about his people. This is not an overbearing husband with the threat of anger or abuse to keep his wife in line. This is a husband who passionately

loves a wife, and based on our study a couple of years ago in Hosea, a wife who has not been faithful. Yet God chooses his people to be his own, to pour out his steadfast, never ending, never changing, always dependable, love on... to give those people no reason to look to anyone or anything else for their satisfaction.

And for a God like that, the third command naturally follows on the heels of the first two. Verse 7 says, ⁷ “**You shall not take the name of the LORD your God in vain, for the LORD will not hold him guiltless who takes his name in vain.**” The God whose glory demands that he is the only being in the universe that is to be worshipped, also demands that his name not be misused. Of course, this goes back to his self-revelation as YAHWEH, but it goes beyond that. It is not just his name, but all titles related to him, his attributes, his commands, his Word and his works. This means that any abusing of anything by which God makes himself known is a violation of this command. So, how does this look in a practical sense? On the more obvious side, using Jesus’s name or God’s name as a curse word is prohibited. I have known even Christians who were fond of using Jesus or God as an expression of surprise or even irritation and anger – basically a curse word. Most of us don’t do that, but Jesus seems to be referencing this commandment to a certain extent, when he says in [Matthew 5:33-37](#), ³³ “[Again you have heard that it was said to those of old, ‘You shall not swear falsely, but shall perform to the Lord what you have sworn.’](#) ³⁴ [But I say to you, Do not take an oath at all, either by heaven, for it is the throne of God, ³⁵ or by the earth, for it is his footstool, or by Jerusalem, for it is the city of the great King. ³⁶ And do not take an oath by your head, for you cannot make one hair white or black. ³⁷ Let what you say be simply ‘Yes’ or ‘No’; anything more than this comes from evil.](#) It is an abuse of God’s name to use his name to avoid being honest. So, to lie about God or to give a wrong impression of God is to misuse his name, which is what the Jewish religious leaders had done with oath taking rules in the Old Testament. Giving a dishonest view of God to others is what is happening when pastors or churches or theologians paint a picture of God that shows him as approving of sinful lifestyles and actions such as LGBTQ. When this happens, the Lord’s name is being taken in vain because it is dishonest about the nature of God himself, his character and his attributes.

But there is one more commandment we need to look at today. Verses 8–11 say, **“Remember the Sabbath day, to keep it holy. Six days you shall labor, and do all your work, but the seventh day is a Sabbath to the LORD your God. On it you shall not do any work, you, or your son, or your daughter, your male servant, or your female servant, or your livestock, or the sojourner who is within your gates. For in six days the LORD made the heavens and the earth, the sea, and all that is in them, and rested on the seventh day. Therefore the LORD blessed the Sabbath day and made it holy.”** Christians have differed on how to apply this command. Some, following Covenant Theology and the catechisms I mentioned, teach that Sunday is the Christian Sabbath. Our own statement of faith—the Baptist Faith and Message—says instead *“The first day of the week is the Lord’s Day. It is a Christian institution for regular observance. It commemorates the resurrection of Christ from the dead and should include exercises of worship and spiritual devotion, both public and private. Activities on the Lord’s Day should be commensurate with the Christian’s conscience under the Lordship of Jesus Christ.”* This means we don’t see a direct correlation between Sunday and the Sabbath day, originally Saturday, the 7th day, but we do still see a day devoted to the worship of God for the church, a spiritual day of rest. Ultimately, Christ has fulfilled this covenant,

and in Him we find our true Sabbath. [Hebrews 4:3](#) speaks of this Sabbath rest in relation to our salvation. [3 For we who have believed enter that rest, as he has said, “As I swore in my wrath, ‘They shall not enter my rest,’” although his works were finished from the foundation of the world.](#) For us as Christians today, the heart of the command is learning to rest – physically and spiritually- in Christ. God does not intend his people to work themselves to death and burn out emotionally, physically or spiritually. Sometimes that means fighting laziness, other times it means learning to stop and say no. Busyness is not rest, but neither are most vacations. But Jesus invites us in [Matthew 11:28-29](#) [Come to me, all who labor and are heavy laden, and I will give you rest.](#) And we dare not take this lightly—for even our Creator himself who needs no rest, set the pattern in Genesis: six days of work, one day of rest. If He modeled it, so should we.

These first four commands to have no other gods before the true God, to make no idols or images of God in the worship of God, to honor God’s name and to keep the Sabbath, are all directed towards God himself. The last 6 we will look at next week are directed more towards our actions towards other human beings. This is why when Jesus summarizes the entire law into two commands, in answer to a religious leader he says in [Mark 12:29-31](#) [29 Jesus answered, “The most important is, ‘Hear, O Israel: The Lord our God, the Lord is one. 30 And you shall love the Lord your God with all your heart and with all your soul and with all your mind and with all your strength.’ 31 The second is this: ‘You shall love your neighbor as yourself.’ There is no other commandment greater than these.”](#) These first four commandments are showing us how to truly [love God with all our heart, soul, mind and strength](#)... When we understand all the implications of these commands, what should become very clear is that none of us are capable of truly loving God as we should. The heart of the problem is our sin. [Romans 3:23](#) is true when it says that [all of us have sinned and fall short of the glory of God.](#) Our sin keeps us from fully worshipping and glorifying God as God in obedience to his commands. We all have set up idols in our hearts, and perhaps even physical idols from the culture around us and worshipped other things that aren’t God. The solution to the problem of our failure in loving God and worshipping God is the same as the solution to our sin – the sacrifice of Jesus on the cross and His resurrection. Only by repenting of our sin and trusting in Jesus as Lord and Savior can our imperfect and too often divided worship be accepted by a holy God. This is based on the perfect obedience that Jesus lived and is imputed or given to us based on the faith we have as a gift of God’s grace. It is through the indwelling Holy Spirit who we have because of Christ that we are able to worship God in the way he demands and deserves. The more we grow in Christ and have our lives shaped in obedience by the Holy Spirit, the more our worship aligns with these first four commandments as we grow day by day in our love for God and as we will see next week, our love for others. Let’s pray.